

令和7年度秋田県青少年健全育成審議会  
会 議 録

日 時 令和7年11月13日（木）10時00分～11時00分

場 所 秋田地方総合庁舎6階 総605会議室

出席者

○ 秋田県青少年健全育成審議会委員（敬称略、五十音順） 11名

石 川	信	秋田県書店商業組合監事
伊 藤	広 行	秋田少年鑑別所長
笈 川	正 典	秋田弁護士会
大 島	ヒロ子	秋田県警察本部生活安全部人身安全対策課
伊 藤	淳	秋田県小学校長会
沢 屋	隆 世	秋田大学非常勤講師
菅 野	薫	学校法人聖霊学園聖霊女子短期大学講師
高 橋	賢 史	秋田県PTA連合会副会長
早 川	恵	秋田県ボランティア団体連絡協議会
村 山	敦 心	公募委員
山 名	裕 子	秋田大学教授

○ 事務局

次世代・女性活躍支援課長	糯 田 正 宏
同課政策監	伽羅谷 美 穂
同課チームリーダー	秩 父 慎 吾
同課副主幹	佐 藤 浩太郎
同課主任	西 村 優希子
同課主事	加 藤 栞 奈
関係各課室職員	

進 行	内 容
事 務 局	1 開会
	本日の審議会は、委員 14 名中、11 名の出席であり、過半数を超えていますので、当審議会での議決は成立いたします。
課 長	2 秋田県あきた未来創造部次世代・女性活躍支援課長 あいさつ
	<p>青少年健全育成審議会の開会にあたり、一言御挨拶申し上げます。</p> <p>日頃から、青少年健全育成行政の推進につきまして御尽力をいただき、深く感謝申し上げます。また、本日は大変御多用にもかかわらず、御出席賜り、厚くお礼申し上げます。</p> <p>さて、近年はSNSを通じた詐欺被害や、自らがその違法性を認識することなく犯罪に巻き込まれてしまうケース等、インターネットに起因する青少年の被害や非行について、たびたび報道等でも目にするところです。</p> <p>また、特に最近では、あちこちでクマが出没しており、通学路や公園といった、子ども達の生活空間そのものがおびやかされる異常事態となっており、県としても全力で対応しているところです。</p> <p>この審議会は、青少年を取り巻く課題等に総合的に対応するため、幅広い観点で御審議、御提言をお願いしているものです。</p> <p>人口減少が進む本県ではありますが、いつの時代も次の社会を支えていくのは若い力です。変化の激しい社会の中で、秋田の未来を切り拓く子ども・若者がたくましく健やかに成長し、特技を磨き、才能を開花させ、夢や理想の実現に向けてチャレンジしていくことができるよう、皆様からの貴重な御提言を、今後の各種施策に反映させてまいりたいと考えております。</p> <p>本日は、それぞれのお立場から忌たんのない御意見をいただきますようお願いいたします。</p>
事 務 局	3 審議会の概要説明
事 務 局	4 委員・事務局の紹介（名簿の読み上げにより紹介）

	5 環境浄化部会委員指名
事務局	ここからの進行は会長にお任せしたいと思います。
会長	<p>会長の山名裕子です。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日は第3次あきた子ども・若者プランの取組状況が主な議題となっております。日頃皆様が考えていらっしゃることをぜひお聞かせいただければと思っております。昨年度制定された秋田県こども計画についても報告がありますが、少子化が進む秋田だからこそ、こども達が生涯にわたって幸せな生活を送ることができるような政策の具現化について、皆さんの考えを共有していきたいと思っております。</p> <p>短い時間ですが、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、最初に環境浄化委員の指名を行います。</p> <p>今回の会議から新たに御出席いただいている伊藤淳委員と村山敦心委員のお二方にも、環境浄化部会委員をお引き受けいただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p>
伊藤淳委員 村山委員	(承諾の声あり)
会長	<p>御承諾いただきましたので、秋田県青少年の健全育成と環境浄化に関する条例第23条の2第2項の規定により、伊藤淳委員と村山敦心委員のお二方を、環境浄化部会の委員として指名します。</p> <p>よろしくお願いいたします。</p>
	6 審議
会長	<p>次第(6)「議題」の審議に入ります。</p> <p>議題①「第3次あきた子ども・若者プランの取組状況について」、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料7「第3次あきた子ども・若者プランの実績、現状分析、課題及び今後の取組方針」を御覧ください。</p> <p>第3次あきた子ども・若者プランでは、乳幼児期、学童期、義務教育</p>

	<p>期、思春期、青年期と、こども・若者の成長段階ごとにステージを分け、各種の指標を設定して施策を推進しています。</p> <p>表の左側の欄では、各指標に対する実績値と目標値、達成率による定量的な評価を、右側の欄では、現状分析、課題、今後の対応方針を記載し、定性的な評価を行っています。</p> <p>達成率による定量的な評価では、全部で 32 ある指標のうち、達成率が 100%以上のものが 10 個、達成率 80%以上 100%未満のものが 13 個、達成率 80%未満のものが 8 個、令和 6 年度の実績がまだ出ておらず未判明となっているものが 1 個ありました。定性的な評価につきましては、記載のとおりです。</p> <p>第 3 次あきた子ども・若者プランは令和 3 年度から 6 年度までの 4 年間の計画であり、今回は最終年度の実績となりますが、達成率 80%以上の指標が全体の 72%を占めており、なかでも「母子家庭の年収 240 万円以上の世帯の割合」や「高等学校における SOS の出し方に関する教育の実施校の割合」等は数値が大きく改善しています。その反面、「放課後児童クラブ待機児童数」や「小・中学校における不登校児童生徒数」等はかなり悪化しており、早急な対策が必要と考えられます。</p> <p>資料 8「第 3 次あきた子ども・若者プランの取組状況」では、第 3 次あきた子ども・若者プランに関連する施策の実施状況をまとめています。</p> <p>こどもや若者の成長段階ごとのステージ別に各種施策を構成しており、それらの施策に対応して各部署が実施した事業の内容と、令和 6 年度決算額及び令和 7 年度予算額を記載しています。</p> <p>第 3 次あきた子ども・若者プランは令和 6 年度で計画期間が終了しており、次期計画につきましては、第 4 次計画としてではなく、こども基本法に基づく新たな計画として、秋田県こども計画が策定されており、当プランの内容の多くが組み込まれています。</p>
会 長	事務局から説明のありました「第 3 次あきた子ども・若者プランの取組状況について」、質問・意見等がありますか。
沢屋委員	犯罪を行った少年の約 4 割が障害を持っていると言われています。学校による障害のあるこども達への支援は行われていますが、健全

	<p>育成はもとより、不登校やひきこもりの原因など様々なところに障害が絡んでいる可能性がありますので、障害に対する社会全体の理解を図る取組について伺います。</p>
障害福祉課	<p>当課では、早期からの障害者理解促進に取り組んでおり、身体・知的・精神といった様々な障害に対する理解の大切さについて学んでもらうため、小学校４年生と中学校３年生に対して、障害を理解してもらうためのハンドブックを、学校を通じて配布しています。様々な障害がある人の特性を理解した上で関わり方を配慮してもらえるように、啓発しています。一般の人に対しても、要望があれば出前講座という形で理解促進を図っています。また、スポーツや芸術を通した障害者理解の取組も行っています。</p>
沢屋委員	<p>高校を卒業するまではある程度学校の方で対応できると思いますが、卒業したこどもや青年層の障害者に対する生活や就職へのフォローはどうなっていますか。将来的にひきこもり等につながることも懸念されますので、総合的な支援について伺います。</p>
特別支援教育課	<p>当課では、特別支援学校を中心に、障害に対する取組を行っており、一般の小中学校との交流及び共同学習を通した障害理解についても推進しているところです。卒業後は、就職先と学校とが連携して、就労定着に向けたフォローアップをおよそ３年間行っています。一般社会に向けた障害理解促進については、本当に大切なことですので検討していきたいと思います。</p>
石川委員	<p>学校の先生達の現場の苦労がまだまだ軽減されていないと感じています。事務職員の増員等、先生が本来の業務にもっと熱を入れられるようにすべきだと思います。</p> <p>また、県外の大学を卒業して秋田に戻ってきたいと思っても、採用人数が少ない等の様々な制限があって戻れないという学生の声も聞きます。県や市町村でも様々な取組をしていると思いますが、もっと秋田に戻ってきやすいようにする必要があると思います。</p>
移住・定住	<p>御指摘の人数制限については県の教員採用等を指しておられるかと思</p>

促進課	<p>いますが、当課で大学生向けに行っているAターンイベントでは、最近なかなか集まりが良くないという課題を抱えており、ぜひ多くの大学生が県内就職を目指してもらえるよう、イベント等への集客をがんばっているのですが、大学生の就職活動はどんどん早期化しており、また、就職に向けての過程がだいぶ変わってきていると感じています。民間の就職サイトを使うなど、イベントに頼らない就職のルートが浸透してきており、難しさを感じていますが、大学進学等で県外へ出た人に、また秋田県に目を向けていただけるよう、情報発信等をがんばっていきたいと考えているところです。</p>
笈川委員	<p>小学校でいじめの認知件数が増えていることについて、件数が増えていること自体が問題なのか、または、件数は増えていても、それはしっかり捕捉できているということなので問題ないとの認識なのか、どちらでしょうか。</p>
教育庁 義務教育課	<p>国が先月末公表した「令和6年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」に基づく、本県の国公立小・中学校におけるいじめの認知件数は4,479件で、前年度から小学校では31人増加していますが、中学校では76人減少しており、トータルで45件減少となっています。</p> <p>国・県とも、いじめの認知件数が増えることについて肯定的に受け止めています。日頃から教職員が児童生徒をきめ細やかに観察しており、小さなトラブルやいじめに気付くことができているということであり、重大事態に発展する前に解決を図ることにつながっています。</p> <p>また、児童生徒に配布されている1人1台端末を活用して、毎日の心の状態や健康観察を行っており、いじめや様々なトラブル、心の問題について把握できるようになっていると受け止めています。</p>
笈川委員	<p>この数値を受けて、県として何らかの対策をしなければならないという認識はありますか。</p>
教育庁 義務教育課	<p>引き続き、各学校においてはきめ細やかな観察により積極的に認知をしていくこと、また、1人1台端末も全ての学校で活用できているわけではありませんので、活用を広げていくことを推進していきます。</p>

	<p>S N S によるいじめは潜在化して見えにくい部分があり、教師が見つける事案に加え、周りの友達や仲間が気付いて教師に伝えることで発覚する事案が多いため、これまで以上に、児童生徒が教師に相談しやすい雰囲気づくり、学校づくりに努めていきます。</p>
笈川委員	<p>こどもの数が減っているので、件数が同じだと、率としては上がっていることになりませんか。先ほど認知件数が増えることについて肯定的と伺いましたが、単に認知の精度が上がっているだけではない可能性もあり、検証していかなければならない場面が出てくると思いますので、児童生徒の全体数に対応した数値も把握した方が良いと思います。</p>
教育庁 義務教育課	<p>国公立の小・中学校、高校及び特別支援学校の児童生徒 1,000 人当たりの認知件数も把握しており、令和 6 年度は 61.3 件で、前年度から 2 件増加していて全国平均と同じ数値でした。客観的な数値をもとにきめ細かく検証して、児童生徒に還元できるようにしていきたいと思います。</p>
笈川委員	<p>今回の報告資料にそれは表れていないのですか。</p>
教育庁 義務教育課	<p>先月末に公表されたため、資料に反映しきれていない部分があります。</p>
会 長	<p>いじめの問題については、秋田県こども計画でも継続して見ていくこととしていますので、今後もいろいろな角度から検証されていくものと思います。</p>
大島委員	<p>義務教育期のネットトラブル被害児童生徒の割合について、県警と各学校が連携して情報モラル教育を推進していますが、10 代のこどもにも特殊詐欺被害が少なからず出てきている状況ですので、実際にどういったところが認知され、どういった対応がされているのか伺います。</p>
教育庁 義務教育課	<p>年に一度、公立小・中学校の児童生徒に対して「スマートフォン等、インターネット利用実態調査」を実施しており、令和 6 年度調査結果では、インターネットや S N S 等のトラブル、被害に遭ったと回答した児童生徒の割合は 3.4% で、その内容で最も多いのが友達や知人とのトラブル</p>

	<p>ルでした。当課で詳細な内容までは把握していませんが、調査結果を受けて学校側で対応しており、学校だけでは対応できない事案については警察に相談するなど、学校だけで抱え込まないように指導しているところです。</p>
大島委員	<p>SOSの出し方に関する教育について、このSOSというのはどういう内容でしょうか。児童生徒が命の大切さ・尊さを実感できる教育とありますが、それに特化したものなのか、あるいはそれ以外も含めた、子どもにとって困っていること等の全般的なSOSにアプローチしているのでしょうか。</p>
保健・疾病 対策課	<p>こどもの自殺対策の一環で、SOSの出し方教育に取り組んでいますが、命に関わるだけでなく、暮らしのなかで悩んでいること等も抱え込まずに、身近な先生等に打ち明けてもらうことを趣旨としています。今年度は、SOSの出し方教育の講師養成にも力を入れています。</p>
大島委員	<p>いま警察のやまびこ電話等の少年相談窓口への相談件数がとても増えています。SOSの出し方教育が浸透していることも相談が増えている要因の1つと感じました。</p> <p>ネットトラブルについて、アンケートに答えていない人については件数に入っていないということですか？</p>
教育庁 義務教育課	<p>実際にはネットトラブル被害に遭っていても、調査でそう回答しない児童生徒がいることはあり得ると思います。学校の方で、トラブルがあって被害を受けた児童生徒に気付いた、または警察に相談しなければならない事案を把握した場合は、市町村教育委員会を通じた児童生徒の事故報告という形で県の方に上がってきます。そこで既に警察と連携しているという報告であれば、正しく対応しているということで整理しますし、まだ警察に相談していないとか、これは大きな事案に発展しそうだという場合は、市町村教育委員会を通じて助言・指導を行っています。</p>
教育庁 生涯学習課	<p>当課では、「“あい”で見守る！あんしんネット構築事業」を実施しており、インターネットの健全利用に関する啓発講座や、未就学児の保護者や幼稚園・保育所の職員に対して、インターネット利用の低年齢化</p>



	<p>に対応した講座等を行っています。また、ネットパトロール事業では、A I を活用した不適切投稿の検知・削除等の支援を行っています。</p>
伊藤（淳） 委員	<p>特定の項目に対する質問というわけではないのですが、全県のデータを作成する際、各市町村のデータを集計して平均値や合計等を算出しているものと思います。当然、市町村によって傾向や相違があると思いますが、例えば数値の乖離が大きい市町村が見られた場合等に市町村との情報共有や働きかけ等を行っているのでしょうか。</p>
教育庁 義務教育課	<p>一例として、不登校や問題行動等の数値に関しては、年2回、県と市町村の指導主事が一堂に会して、全県指導主事等連絡協議会という各教科や領域別の会議を行っていますので、その中で、例えば不登校や問題行動等の数値に関しては、県全体や市町村別の傾向を市町村教育委員会と共有して、対策を協議していくといった取組をしています。</p>
菅野委員	<p>若者の自立支援を通じた進路決定者数の課題に「県内における 15～39 歳の若年無業者は約 4 千人いると推計されており、これまで若者の居場所や相談・支援機関に一度も来たことがなく、適切な支援の手が届いていない若年無業者が相当数存在する可能性がある。」と記載されていますが、なぜそのような状態になっているのか、どのように把握しているのか伺います。</p>
次世代・女性 活躍支援課	<p>若年無業者数については、5 年ごとの国勢調査で把握されている数字であり、若年無業者の中でも、本当に支援を必要としている人がどれくらいいるのか、また、その人達が実際にどのような暮らしぶりをしているかといった詳細な実態把握は困難な状況となっています。</p>
菅野委員	<p>様々な事情で学業を続けられなくなって退学する学生が実際にいます。学校コミュニティの中にいる間はなんとか学内で見守ることができていますが、そこから離れてしまった後の若年層に対する県の具体的な支援は、居場所を開設しました、来てください、来られる人は支援します、といった受動的な支援だけではなく、もうちょっと突っ込んだ形での支援も行われているのでしょうか。</p>

次世代・女性 活躍支援課	<p>県内 13 箇所に若者の居場所が設置されているほか、厚生労働省が秋田市と横手市の 2 箇所に地域若者サポートステーションを設置しており、社会的自立に向けた様々な悩みの相談に対応し、各種自立支援を行っています。御指摘のとおり、学校や職場といった社会とのつながりを保っている人であれば、こういった支援は受けやすいのですが、学校や仕事を辞めて社会との接点が途切れた形になってしまっている人をどうやって把握し、こういった形で適切な支援につなげられるかについては、当課としても大変悩んでいるところです。</p> <p>県では、子ども・若者支援ネットワーク会議を設置して、教育・福祉・医療・就労といった様々な分野の支援機関が一堂に会し、様々な困難を抱えた子ども・若者の支援に関する協議や情報交換を行っており、現在はそういった社会との接点が途切れた人達を何とかしようと話し合っているところです。</p>
菅野委員	<p>今後の対応方針として、一層の周知に努めると記載されていますが、具体的にどのように周知しているのでしょうか。</p>
次世代・女性 活躍支援課	<p>県の公式サイトやチラシ等で周知活動を行っていますが、本当に支援が必要な人にその情報が届いているのかが分からず、悩ましいところです。SNS 等の子ども・若者がよく利用している媒体を活用しながら、必要とする本人に直接情報を届けられるよう、周知方法を工夫しているところです。</p>
菅野委員	<p>提案なのですが、実際に卒業・退学した学生達のその後を見ると、本人が抱える問題をどこにも発信できず、学校がその情報を抱え続けざるを得ないという状況は、いささか社会的責任が重すぎると感じています。家庭環境や様々な要因で、青年年齢になってもなかなか周りに SOS を出せない人達がいて、それに気付いている大人がいても、それを第 3 者がどこかに相談できるかという点と難しいと思います。そこで、誰がどこにこういう相談ができる窓口があるよ、という情報をもう少し明確化して、広く社会に共有していただけると、様々な不都合を抱えている若者も住みやすくなっていくのではないかと感じます。</p>
次世代・女性	<p>それぞれの発達段階に応じた様々な相談機関が実際にはあるのです</p>

活躍支援課	が、支援を必要とする人にきちんと知られていないことが課題であると認識しています。
会 長	周知が行き渡ることに少し力をいれていくことが必要と感じました。 「第3次あきた子ども・若者プランの取組状況について」は、これよりよいのでしょうか。
委 員	(異議なしの声あり)
	7 報告
会 長	次第(7)「報告」に入ります。 報告①「秋田県こども計画の概要について」、事務局から説明をお願いします。
事 務 局	資料9を御覧ください。 秋田県こども計画につきましては、昨年度、こども計画策定委員会の審議を経て策定され、令和7年3月に公表されたところです。 計画のポイントにつきましては、こども・若者の権利等の普及啓発と、こども・若者の社会参画・意見表明の推進の2つが新たに加えられています。 計画の策定にあたりましては、国のこども大綱が示している「こどもまんなか社会」の実現を目指していくこととしており、これまで県で取り組んできた「第3次あきた子ども・若者プラン」と「第3期すこやかあきた夢っ子プラン」を統合する形で策定されています。 こども・若者を取り巻く現状としましては、少子高齢化の急速な進行、保育所等への入所数の増加、不登校児童生徒の著しい増加や、いじめの認知件数の増加、男性の育児休業取得率の増加等があげられており、これらを踏まえ、計画推進の基本的な考え方として、「全てのこども・若者が、個性や多様性が尊重され、将来に希望を抱きながら健やかに成長し、幸福な生活を送ることができる社会を目指すこと」を基本理念としています。 施策の推進方向として4つの施策が掲げられており、これらの施策を構成する柱として、その下に記載される様々な取組が推進されていくこととなります。最後のページには、この計画を実現するために設定され

	<p>た各種指標を掲載しています。</p> <p>この計画の推進期間は令和7年度から11年度までの5年間となっており、その推進状況につきましては、今年度から新たに設けられた秋田県こども施策審議会において審議されていくこととなります。</p>
会 長	<p>事務局から説明のありました「秋田県こども計画の概要について」、質問・意見等がありますか。</p>
伊藤（広） 委員	<p>こども計画の1番のキーワードは「こどもまんなか社会」だと思っています。この言葉ができてからもう2年ほどたちます。最初は報道等といい言葉だなと思って聞いていたのですが、時がたって忘れられているように感じられるのが少し心配です。非常に大切な言葉であると私は感じていますので、「こどもまんなか社会」という言葉が、計画の中だけの言葉にならないように、秋田県の中で浸透していくように、きちんと周知していくことが必要だと感じています。</p>
会 長	<p>「こどもまんなか社会」の意味をしっかりと周知していく必要があると思います。</p> <p>「秋田県こども計画の概要について」は、これでよろしいでしょうか。</p> <p>次に、報告②「優良図書等の推奨について」、事務局から説明をお願いします。</p>
事 務 局	<p>資料10を御覧ください。</p> <p>昨年10月と11月の2回に分けて行われた環境浄化部会において、推薦があった13冊の図書に対して、県からの諮問に基づき審議し、優良図書として10冊の推奨を答申しています。図書名、発行所等については、記載のとおりとなっており、県では、令和6年11月1日及び12月6日に、答申を踏まえて優良図書の推奨を決定し、公表、周知しています。</p> <p>今年度は1冊の優良図書の推薦があり、県から諮問されていますので、この全体会終了後、引き続き環境浄化部会を開催し、審議する予定としています。環境浄化部会委員の皆様は、引き続きよろしくお願いいたします。</p>
会 長	<p>事務局から説明のありました「優良図書等の推奨について」、質問・意見等がありますか。</p>

委 員	(特になし)
会 長	8 その他
事 務 局	<p>次第(8)「その他」に入ります。 事務局から何かありますか。</p> <p>特にありません。</p>
会 長	全体を通して、皆様から何かありますか。
委 員	(特になし)
会 長	それでは、進行を事務局にお返しします。
事 務 局	9 閉会
	<p>皆様、熱心な御審議ありがとうございました。</p> <p>皆様からいただいた御意見につきましては、今後の施策に結びつけられるよう、関係各課で検討していきます。</p> <p>この全体会終了後、引き続きこの場で環境浄化部会を開催しますので、環境浄化部会委員の皆様は、時間になりましたら御着席ください。</p> <p>全体会については、この後、今年度中の開催は予定していませんが、重要事項等の審議案件が生じた場合には、開催等について御連絡いたします。</p> <p>それでは、これをもちまして、令和7年度秋田県青少年健全育成審議会の全体会を終了します。</p> <p>皆様、ありがとうございました。</p>